

榭原病院

Monthly

Vol.60
2023 January

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榭原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)
1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榭原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榭原病院院長就任。
日本司法精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

令和5年の年始を迎えて

院長 村田 昌彦

皆様あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルス感染に振り回された一年でしたね。皆さまはお元気で過ごしてでしょうか。夏の第7波、そして暮れからの第8波が現在進行形で生じています。最近ワクチンの接種効果が出てきたものの、年末から三重県全県のコロナ病床利用率が50%を超えてしまいました。

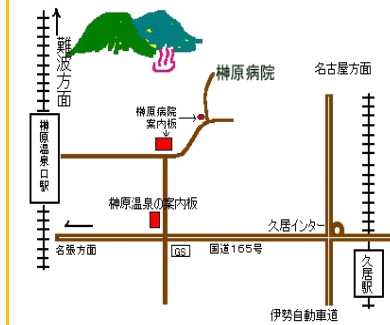
かつて私は、令和3年のこのマンスリーの新春巻頭言で新型コロナウイルスとの戦いについて書きました。つまり令和2年から私たちはずっと新型コロナウイルスと戦い続けていることとなります。

当院には感染症に対応した陰圧ユニットがあり、この感染症が広がり始めた頃から、感染した精神疾患の患者さんを受け入れてきました。医療安全担当の看護師長さんを中心に、感染への防御を徹底していますので、このユニットからの感染は一度も生じていません。しかし、ユニット以外の病棟内にコロナが侵入したことがありました。病院が一丸となって対応いたしましたので、感染が拡大してクラスターとなることは何とか防ぎましたが、患者さんやご家族の皆さんに大変なご迷惑やご心配をおかけいたしましたこととお詫びいたします。

コロナ感染には臨機応変の対応をしなければならないように、精神科の治療についても状況の変化に沿った対応が必要です。進化論を唱えたダーウィンは「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである」と述べています。新型コロナウイルスは、まさに生き残るために変異を繰り返す適応戦略をとっているといえるでしょう。私たちも変化する新型コロナウイルスに対抗するだけでなく、精神疾患にも適応的に、戦略的に取り組んで参ります。

長いつきあいにも関わらず、いつまで「新型」コロナウイルスと呼ぶのか、と思いますが、みなさんはどう思いますか？新発売の車も3年経つと新型とは言わないのに…少し肩の力を抜きつつ、こころに笑う(卵)余裕を持って過ごしましょう。

今年もよろしく願いいたします。



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分

自動車/ 久居インターより約20分
マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



病院マスコットキャラクター「さかきばら」



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和4年12月までに全症例は135例となりました。新規導入は12月0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。



〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。

デイ・ケア案内

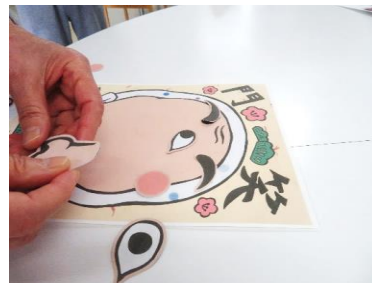
あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

デイケアは、南2階で、感染対策をとりながら実施しています。また、天気の良い日は屋外で散歩や園芸も行っています。1月の散歩は初詣に近くの神社にお参りします。デイケアの活動時間は9:30～15:30です。朝はヨガや体操で体を温めてから、プログラムに参加いただきます。午後もし昼食休憩の後に体操の時間があります。体力やその日の気分に合わせてご参加ください。

プログラムは、体育館でのスポーツやコグニサイズ、一人でのカラオケ、アート、手芸、園芸、音楽鑑賞、クイズ、脳トレ、こころの勉強等のプログラムを用意しています。プログラム表は、外来や病院のホームページにあります。デイケアでは、ご利用の皆さまに面談も行っています。皆さまが、ご自分の望む方向に向かうことを、デイケアは応援します。また、皆さまからのご要望も教えていただければと思います。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



手作りの福笑いです



慎重に顔のパーツを置きました。が・・・

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム

高血圧対策について②

前回に引き続き高血圧のはなしですが、高血圧の原因の9割がはっきりわかりません(本態性高血圧)。残りの1割が他の疾患が原因となっています(2次性高血圧)。本態性高血圧は原因が不明ではありますが、その一因として環境的要因があげられています。家族が高血圧であれば、遺伝的要因もあるかもしれませんが、ともに食事をするので環境が影響しているのではと考えられるからでしょう。その対策として、減塩があげられているわけです。実際、長期間で減塩食の栄養指導を行った方の中には、確かに収縮期血圧(いわゆる上)が下がっていました。しかし拡張期血圧(いわゆる下)は、すぐには下がってくれませんでした。しかし、時間をかけてですが、徐々に拡張期血圧が下がる傾向を示していました。やはり継続して取り組むことが一番ですね。